



ユニセフ活動から学ぶ 精神保健福祉士としての支援

報告者 東京医薬専門学校 心理技術科 精神保健福祉士コース 竹内 麻由美先生

ポイント

東京医薬専門学校 心理技術科では、精神保健福祉士を養成し10周年となりました。精神保健福祉士の主な仕事は、心の病（精神障害）にかかった方の支援を行うことです。障害を抱えながらも、同じ地域で共に生きるために何が必要か、それぞれのニーズに応じてケア・サポートをします。

今回、国際教育の一環で「日本と諸外国の相違点を認識し、様々な視点から日本を考える」をテーマに授業を行いました。ユニセフで行っている活動（支援）を学び、自分たちにできること、そして精神保健福祉士としての支援とは何かを考えることを目的に、ユニセフハウスの見学をさせていただきました。

実践

ユニセフハウスの見学

本校では、高校を卒業した10～30代の学生が共に精神保健福祉士を目指し勉強しています。

事前学習で、「難民」についての理解を深め見学当日は、ボランティアの方から、お話を聴くことができました。

その「難民」のことについては、今回日本で行っている支援組織のひとつとしてユニセフを取り上げました。



開発途上国の保健センター

ユニセフハウスは、子どもにもわかりやすい展示となっていますが、世界の現状やユニセフの活動など大人でも勉強になることがたくさんあります。学生たちも興味津々で施設内の見学をしていました。

ユニセフハウスの1階は、ユニセフの活動や歴史などについて、年表や大きな世界地図、それに大画面の映像でみることができます。また、2階には「開発途上国の保健センター」「ユニセフの支援する教室」「難民キャンプ」「世界で活躍する子どもたち」の4つのコーナーにわかれています。



ユニセフの支援する学校の教室

ユニセフハウスの見学を通して、1度は耳にしたユニセフの活動を改めて知り、新たな発見も多く、視野が広がったようです。

学生の感想

- ・ J8という活動を行っていることをはじめて知りました。ユニセフの活動は、募金によって物資の供給をしたり、何かを与えていることだと思っていましたが、自立の支援を行っていることにとても興味をもった。
- ・ 汚い水を飲むことによって体から虫がでてくるのが一番心に残った。戦争に行く子どもたちや女性の権利についてもっともっと知りたい。私にもできることは何かないか、ボランティアに参加したい。
- ・ 子どもの権利条約には様々なものがあることを目のあたりにして驚きました。また、スクールインアボックスで80人の子どもが勉強できると知り、支援の幅のひろさの一部を理解することができました。
- ・ 世界中で日本の人口よりも多い子どもたちが、強制労働や家族のために働いているという現実が想像をはるかに超えていて驚きました。ビタミンAのカプセルや、経口補水塩水が本当に私たちの気持ちで支援できるものだとし、多くの人に伝えたいと思います。
- ・ 子どもが強制的に無理やり兵士にさせられたり、友達なのに目の前で殺さなければいけなかった体験談が記載されていたことやビタミン剤が1錠1円だということが印象的でした。

成果

世界の現状を知る上で、とても興味関心を持てる教材が多くあったと思います。今回ユニセフの活動が「自立と予防」と聞き、精神保健福祉士の仕事とも通じる気がしました。例えば、募金で食糧を用意し届けるのではなく、食糧をその地域で生産できる技術を伝えることは、精神保健福祉士として大切なことである「何かをしてあげるのではなく、今後の自立のための方法を伝えること。」と重なります。大切なことは、これを機に考え何に活かすかだと考えます。

今回の見学を機に、いろんな視点を持ち考え成長できる精神保健福祉士になってもらいたいです。